

1 境港公共マリーナの状況

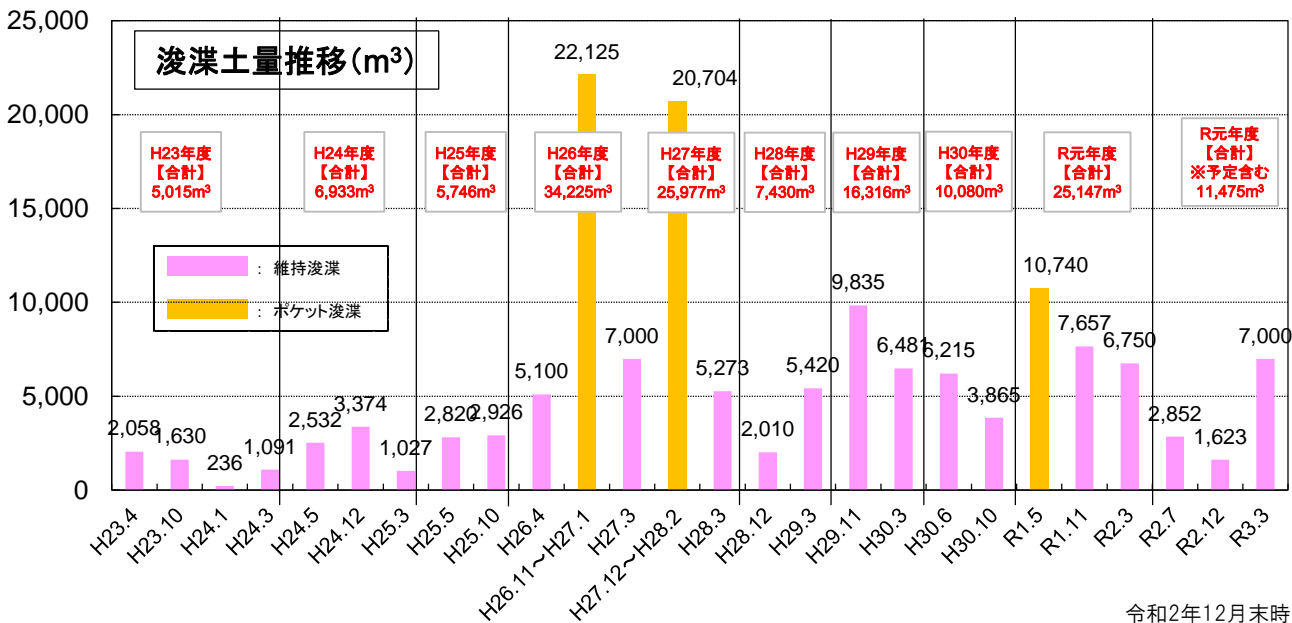
- 弓ヶ浜海岸末端部に位置し、例年漂砂により航路が埋没。
- 航路維持のため、国交省の養浜と連携したサンドリサイクル事業により、毎年浚渫を実施。
- 平成26年2月の関東沖の爆弾低気圧で東よりの強風が続き、航路が埋没、船舶の入出港が困難となった。
- 平成26年3月 日本オリンピック連盟のセーリング強化センターに認定(リオデジャネイロ五輪まで)。
- 平成26年度、既設管理棟の施設改善や係留施設整備(緩衝材)等を行った。
- 平成28年3月 セーリング競技の世界大会「2019レーザー級世界選手権」の開催地内定。
- 平成28年11月 セーリング競技の世界大会「2019レーザー級世界選手権」の開催地正式決定。
- 平成30年度～令和元年度、「2019レーザー級世界選手権」に合わせ、マリーナ周辺の施設改修。



令和元年5月22日撮影(浚渫作業中)

2 堆積土砂量の推移

- 弓ヶ浜海岸(米子市夜見、富益地内等)は、美保湾を北に向かう沿岸漂砂により侵食され、流末(北側末端部)に位置する境港公共マリーナ付近に堆積し、航路・泊地が埋没している。
- 境港公共マリーナの航路・泊地に堆積した土砂について、境港管理組合が浚渫して陸上げし、国土交通省日野川河川事務所が自らの採取土砂と併せてダンプトラックで運搬、侵食が進む米子市富益地区等の弓ヶ浜海岸の浜崖部に養浜するサンドリサイクル事業を実施している。



令和2年12月末時点

3 これまでの対応状況

鳥取大学と連携し、防砂突堤を整備、その後の土砂堆積の経年変化を観測し、効果を検証

○防砂突堤整備(平成23年度)

- ・突堤の形状:汀線を起点に延長22m、天端幅3mの捨石式防砂突堤(平成24年3月完成)

○測量調査(平成24年度～平成25年度)

- ・防砂突堤整備の効果検証の基礎データとするための深浅・汀線測量を実施

○解析検討(平成25年度)

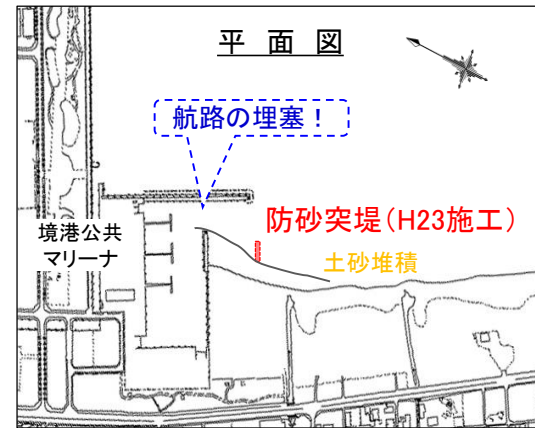
- ・防砂突堤整備後の深浅・汀線測量の結果を基に突堤改良に向けたシミュレーションを実施

○航路埋没対策(平成26年度)

- ・皆生海岸全体の土砂変動特性を把握、マリーナ周辺の土砂変動要因を分析し、航路埋没対策を立案

○マリーナ安全協議会の開催(平成27年度)

- ・平成27年6月24日に開催した境港公共マリーナ安全協議会(マリーナ関係団体、漁業関係団体、鳥取大学、国交省他)において航路埋没対策案(防砂突堤(案)+維持浚渫)を説明し、概ねの了承を得た



4 近年の取組状況と今後の予定

○平成28年度～平成29年度

- ・防砂突堤の配置検討(調査、シミュレーション)(鳥取大学共同研究)
- ・平成29年10月に発生した台風21号の高波浪の影響(皆生海岸の侵食、マリーナ航路・泊地の埋没)が甚大であったため、海岸管理者(鳥取県)と調整した結果、長期的な視点での対策の検討が必要なことから、当面防砂突堤の整備を取り止め

○平成30年度～令和元年度

- ・2019レーザー級世界選手権大会開催(6月26日～7月24日)に向け、航路・泊地の埋没を未然に防ぐためのポケット部の整備(浚渫)を実施(令和元年4～5月)
- ・令和元年6月には、南側砂浜海岸の状況をリアルタイムで把握し、当該海岸の適切な維持管理や安全にマリーナをご利用いただくためのツールとして海岸監視カメラを設置。



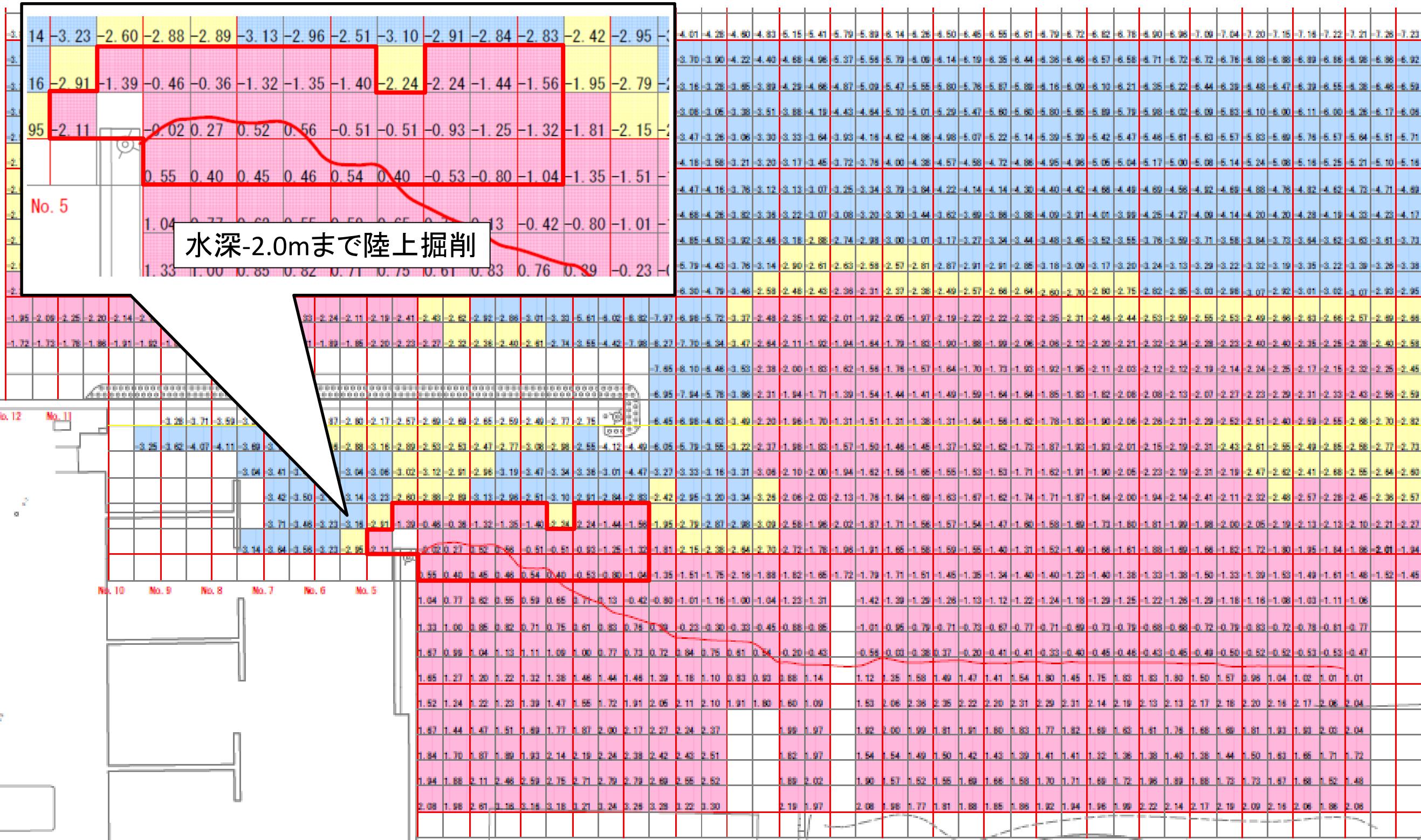
★長期的対策(概ね10ヶ年)

- ◇現マリーナ東側への展開を睨み、機能移転・拡充の含めた抜本的な計画を立案
- ◇抜本的な計画は、平成29年度から着手している長期構想(港湾計画改訂)にて検討

長期的対策の実施までの間は、深浅・汀線測量を定期的に行うなどモニタリングを強化し、維持浚渫による航路水深の確保を図る。(平成30年度より2ヶ月に1回の深浅・汀線測量を実施)

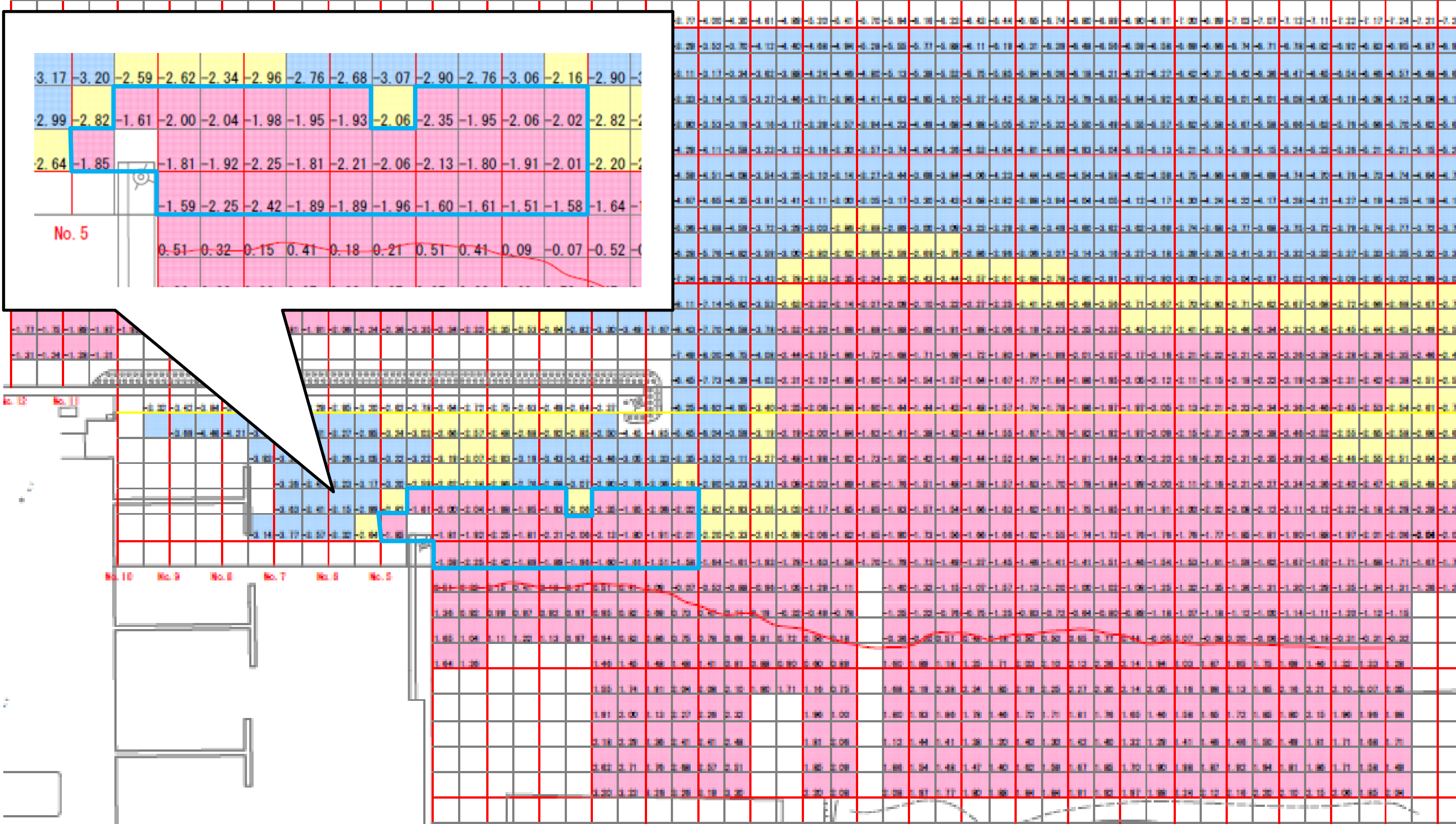
令和2年6月19日測量

陸上掘削（7月） 浚渫量2,850m³



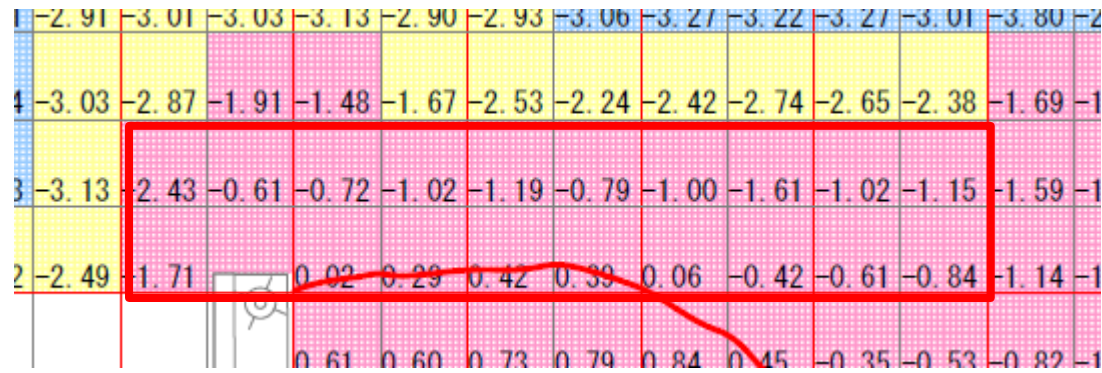
水深-2.0mまで陸上掘削

令和2年8月20日測量 陸上掘削(7月)後

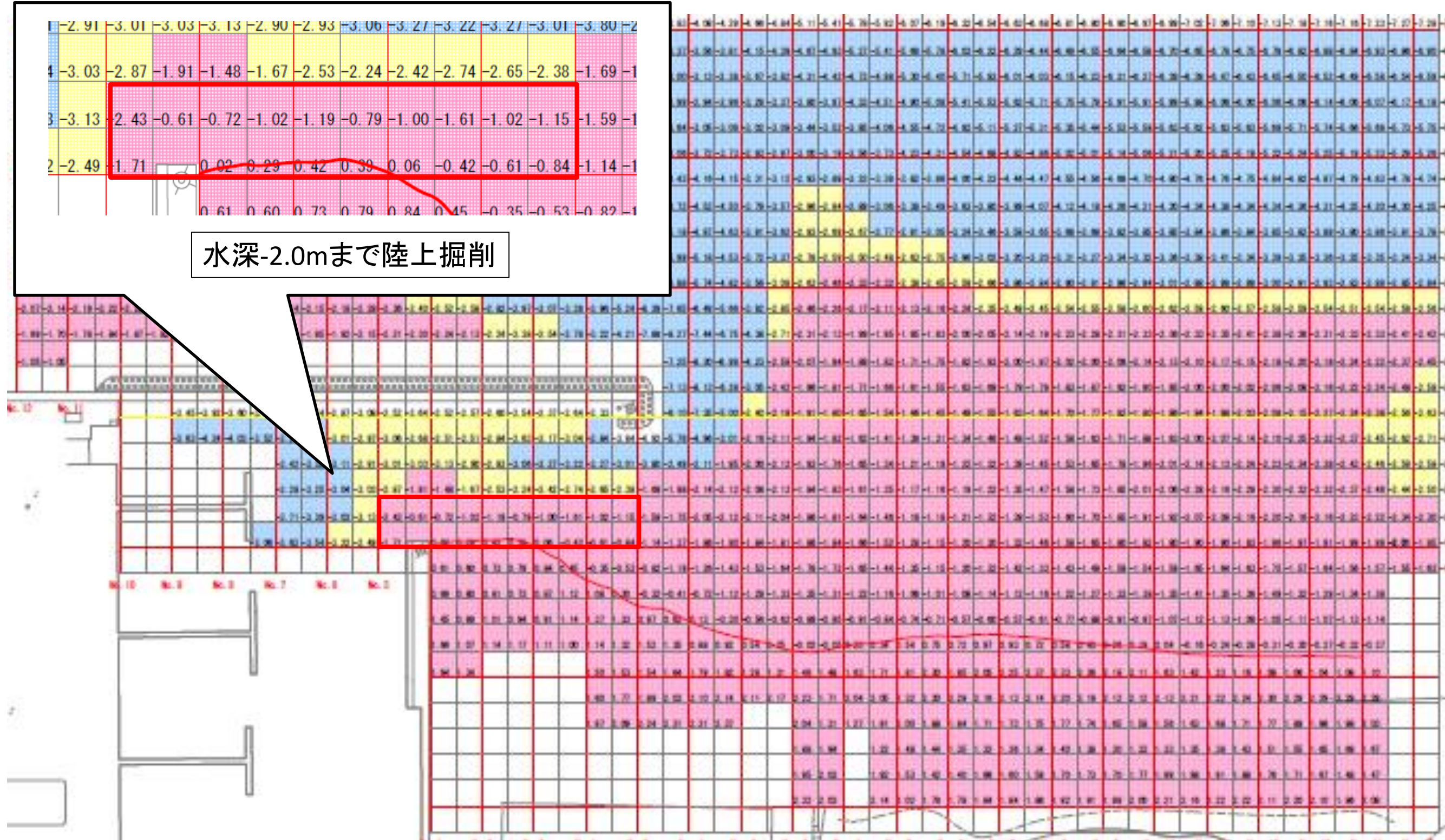


令和2年10月19日測量

陸上掘削 (12月) 浚渫量1,623m³



水深-2.0mまで陸上掘削



令和2年12月22日測量 陸上掘削(12月)後

